

ジンベエザメは成長して大きくなると 故郷の海へ帰っていく

昨年の夏は家族で、能登半島へ出掛けた。富山湾の北西に位置する能登島の南端は、七尾市の和倉温泉まで一キロ余りの至近距離にあり、能登島大橋の架設は島民の悲願であった。

水族館は観光振興を図って、大橋の開設と同時にオープンであった。この施設は、能登半島に生息、回遊している魚などを飼育・展示している。一緒に旅をする七歳(小二)の孫は魚類に詳しく、サメへの好奇心が強かったので、巨大なジンベエザメが見られる「のとしま水族館」を訪ねることにした。

「のとしま水族館」のシンボルといえるジンベエザメの「ナナベエ」は、大きな体

でゆったりと泳いでいた。食べ物は一ランクトンや海藻なので、性格はおとなしいのだ。この時「ナナベエ」の大きさは四・六メートルであったが、「水槽での安全な飼育が難しくなっただけに放された」と、後にテレビのニュースが報じていた。

ジンベエザメの飼育・展示は、沖縄の「美ら海水族館」を含む全国五ヶ所で行われている。十メートル以上に成長するらしいが、狭くなった水槽の大きさに配慮して地元の海に返しているという。

「のとしま水族館」における独特の展示方法は、ジンベエザメへの対応と同じく自然環境と共生している。イルカ・アシカシヨの背景として能登の海があり、展示プ

ールと海が一体化した構造も見事であった。水族館からの帰路、能登島大橋を走っていると海越しに和倉温泉の高層階になった建物群が見渡せた。プロに選ばれた温泉日本一の「加賀屋」を取り巻くように佇む風景は、存在感が際立っているのだ。

JR七尾線の和倉温泉駅には、大阪からの直通を含め十四本の特急列車が発着している。集客力の高さは地元で好影響をもたらす。「のとしま水族館」は和倉温泉から車で二十分の距離にある。知名度が高く集客力の強い温泉街は、観光業を筆頭に地元産業を活性化させているのだ。間もなく関西に北陸新幹線が伸びると、能登半島の魅力は一段と高まるであろう。